

## このまちから学ぶ、この地域から学ぶ

副校長 平野 千恵

先日、4年生の社会科見学に引率責任者として行ってきました。都筑水再生センターとごみの焼却を行っている資源循環局都筑工場です。ごみを食べる微生物や「最初沈殿池」など、実際に見ることで学びが自分事に変化していく子どもたちの様子が伝わり、とても有意義な時間を過ごしました。また私は、都筑工場での案内をしてくださった方の話がとても印象に残りました。「ぼくはとてもこの仕事が好きなんだ。危険が伴うし、一日が終わるころには全身汚れてしまっている。でもね、一日が終わった後の充実感は、他の仕事では得られないと思う。」という話や「ここは『工場』です。『工場』とは『何かを生み出すところ』なんだよ。では、ここで何を生み出していると思いますか。そう、エネルギーです。僕たちの仕事は、ごみを利用して資源を生み出しているんだ。ここは『資源循環局』であり、名前の通りごみという資源を循環させている素晴らしい仕事なのです。」という話をしてくださりました。子どもにとって、もしかしたら、難しい内容だったかもしれませんが、その場に行かなければ聞くことのできない現場の声に触れられた時間でした。

現場といえば、「総合的な学習の時間」で地域に目を向け取り組もうとするクラスが今年度もいくつか見られます。学校を離れ地域へ飛び出し、身近にある公園や催しに関わってくださっている方々の思いを聞くことは、自分が育っているまちの重要性を再認識することになります。「総合的な学習の時間」の目標は「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。」とあります。この目標をふまえ、横浜が目指す「総合的な学習の時間」が育む力とするところは4点ありますが、その中の一つである次の目標に着目しますと、まさに本校は目標を達成する上で材の宝庫といえるのではないのでしょうか。

地域社会と関わりながら学ぶことを通して、横浜の良さや特色、課題に気付き、地域社会の一員としての自覚をもち、自らの役割を考え、よりよい社会を創造しようとする態度や、積極的に参画・貢献しようとする意欲と実践力を育みます。

PTAをはじめ地域コーディネーターを中心としたサポーターの方々が関わってくださっていることは、先月号で学校長が記述した通りですが、さらに先日行った地域清掃やこれから行われる梅が丘のお祭りなど、本当に素晴らしいまちであると思っています。このまちで生まれ育ったことに誇りをもって、「つつじが丘小の出身です。」と胸を張って子どもたちに羽ばたいていてもらいたい、そのために、地域に負けず我々教職員も、学びの足を止めずに頑張っていきます。